

郵便
報知新聞
第五百七号

下総國相馬郡宿禰寺村ある百姓永妻
小丘南の母と云ふ今年七十三才の極老
なるが昔の色香と返り咲色欲の迷入
さめ終日頂出入の戸張村大工の山右立
氏藏とを六十八才五月ある老漢と
つらつら後をさへ終ま先月八月
夜敏さうけつるさなまやと暖めら
まの暖めつ面を包む頬冠り白髪頭
へ隠せさかくねぬりの海名もて膝の小
兵僧の大に魂消引戻さんと為しけし
も中へ聞入さしうら終投訴出
戸長青柳氏の理解ま依り思ひ切
らねぬ砂の尉と焼との血の涙開らる
せんあ世を誓言の潮へ別まへし聴入
哀の催さるる毒英びを為さる



金精堂

大橋芳一
彫

